

明 — みょう —

真宗大谷派 本明寺通信

No.7

2008年1月1日発行



新年 ご挨拶申し上げます

空過（くうか）

新しい年を迎えました。昨年はい本明寺本堂庫裡の落慶を無事に迎えられ、聞法道場として新たに歩み出しました。本年も皆様方と、共に喜び、共に悩みながら念仏・聞法の生活を勤めていきたいと思えます。

最近の本明寺周辺でも中高層のオフィスビルやマンションが建ち並ぶようになりました。そのため空が見える範囲が少なくなつたように思います。「空（そら）」という字は「空（むな）しい」とも

読みます。何か人間のココロの空しさを隠すように、建物が高くなり空を隠しているように思えてきます。

親鸞聖人は九歳から二十九歳までの二十年間、比叡山で修行に励んでいました。しかし、親鸞聖人が比叡山での修行で見えてきたことは、修行を成しとげることのできない自分自身と、成しとげられずに空しく過ぎて行く日々だったのではないのでしょうか。

まず修行とは※1身（しん）・口（く）・意（い）でおこないます。身・口・意とは、例えば「お酒を

飲んではいけない（不飲酒（ふおんじゅ））」という修行を行うとします。まず「身」ではお酒を飲むではいけません。「口」では「お酒を飲みたい」と言っではいけません。「意」では「お酒を飲みたい」と思っではいけません。いくら身・口では何とか成し遂げることができたとしても、自分自身のココロ（意）にはウソをつくことはできません。親鸞聖人はその「意」の行為が成し遂げられないことに気付き、「どのような修行をしたとしても成しとげることのできない私は、自らがさとりを得ることのできない凡夫である」と悩まれたのだと思います。

それから親鸞聖人は比叡山を下り、法然上人の下に向かいました。そこで親鸞聖人は「本願を信

じて、念仏申さば仏になる」という本願念仏の教えに出遇い、浄土真宗を明らかにされました。

私たちの生活の中でも、意のままにならないことが多くあると思います。私たちは自分の意のままにならないと腹が立ちそれをストレスとして抱え込み、スポーツをしたり、お酒を飲んだりして発散させようとします。しかしそれはストレスを隠しているだけで根本的解決にはならないと思います根本的解決は、まず自分の意のままにならないことがあることを知ることが大切だと思います。

お正月には修正会（しゅしよえ）をお勤めします。修正会とは字のごとく「修正しましょう」ということです。何を修正するかは「自分の意のままにする」といような

自分勝手な生きかただと思えます。自分の意のままにならずに腹を立てながら空しく過ごさぬように修正会をお勤めしたいと思えます。

本願力にあいぬれば

むなしくすぐるひとぞなき

功徳の宝海みちみちて

煩惱濁水へだてなし

（親鸞 『高僧和讃』）

南無阿弥陀仏

（副住職 釈 彰一）

※1 身・口・意

身：身で行なうこと

口：言葉を発すること

意：ココロで思うこと



精工舎の跡地に建てられたオリナスのビルです。住宅棟（右）は地上四十五階、事務所棟（左）は地上三十一階です。本明寺の屋上から撮影しました。

←

本堂庫裡落慶法要 兼修 報恩講法要

十二月九日（日）本明寺の本堂
庫裡落慶法要兼修報恩講法要が行
なわれました。当日は天気も快晴
となり、当初本堂に用意した席だ
けでは足りず、客殿にまで溢れる
ほどの多くの門徒の方々に足を運
んでいただきました。これまで歩
んできた本明寺の歴史はご参詣く
ださった皆様、またそのご家族の
皆様に支えられてきたことを改め
て実感させていただいたと共に、
感謝の気持ちでいっぱいになりま

した。

これからも本明寺が私たちの
聞法の道場としてあり続けられる
ように精進していききたいとおも
います。皆様方におかれましてもこ
れまでも益して本明寺にご協力
いただけるよう心よりお願い申し
上げます。

合掌

本堂には一〇〇名近くの方に
入って頂き、満堂になりました。





記念法話に通覚寺の前住職
であります稲垣俊夫師にお話
いただきました。

→
↓



お寺は参詣に来る人がいて、法話をする坊さんがいてはじめて成り立つところである。お寺には本堂があるが、親鸞聖人は「堂」という言葉に「習う家」という注をつけておられる。「学習」という言葉があるが、「学」は教える人がい

て知恵を授かることで、「習」は繰り返し繰り返し体をもつて聞くことである。お寺は何を習うところなのか。それは自分というものを教えてもらうところである。自分とはなにかというと、如来のはたらきに身を委ねて、現前の境遇に落第している私である。「悪をやめろ。善をなせ。」と言われたからといって、それを成し遂げられない私である。自分のはからいではどうすることもできないことがある。自分ではどうにもならないところに「自らの落第」を感じるのである。

南無阿弥陀仏と

ただ念仏して 正気に帰れ
と言われるように、凡夫である私を気付かせてくれるのがお寺である。

(要約)

表 白

本日ここに本明寺本堂及び庫裡落慶法要にあたり、教主阿弥陀如来、教主釈迦牟尼如来、宗祖親鸞聖人の宝前を莊嚴し仏華を捧げ、香を薫じ、法灯を点じて謹んで白す。

惟うに我が浄土真宗は七百有餘年前、親鸞聖人が立教開宗されて以来、幾多もの人々によつて現在までその法灯が受け継がれてまいりました。

ここ本明寺にあつても明治四十二年に祖父釋鳳賢家族が新潟西蒲原より上京し太平町の地を勝縁の地として、説教所を開設して以来、震災、戦災、水害などの幾多もの災いを乗り越えて、多くの門徒方と共に二代釋賢勝により現在の基

礎が築かれ、さらに躍進せんとする時を迎えることと成りました。

然れども現代は末法濁世の止まることを知らずむしろ劣悪の方向へと進み、教法すら失われたかの如き様相を呈しています。

また、私において物質文明に惑乱され、さらに宗教的理念の欠如と相俟つて正耶の分別もなく、迷信盲信に陥り、諦法の罪を犯し顧みることなく、さらに自他共に苦悶し、不安動乱におののき、虚しき幸福を求めて日々の苦悶するのみで有ります。痛ましきこと言うべからず。これ正法の教えに暗く、仏法に誠実に会わざるによつて、慚愧の念殆ど堪えず、ただ悲歎の情を擬するのみです。

噫々、幸いなるか如来の慈光は倦ことなく、常に我を照護し、ま

さに五濁増の時にさらに光を増し、苦悩の有情を憐愍し撰取したもうとの宗祖親鸞聖人のご教示を蒙り、受け難き身を受け、逢い難き大悲の本願に遇い、願生浄土の素懷を遂げんとす。

本日、本明寺落慶法要にあたり、御同朋御同行同じき法の中に永く慈恩を蒙り、念仏の道場として聞法に弛まぬ努力をせん事を尽くさん。

請い願わくは仏、世尊、我らのために遍く慈光を放ちて、攝取の御手を垂れたまいて、念仏の一道を歩ませ給い。

二〇〇七年十二月九日

釋隆見 敬つて白す。

法要では起立散華
をおこないました。
日ごろの法要と違
い、壮大な法要でし
た。



法要出仕寺院
正見寺・専勝寺
安樂寺・福成寺
來應寺・長敬寺
本昌寺・通覚寺



責任役員挨拶

本明寺責任役員

早矢仕 昌治



この度、本明寺が立派に改築されました。大正の大震災、昭和の戦災とその度に立て直してこられました。実は一昨年春頃、総代が集まった席で住職より改築希望のお申し出を伺いました。その時はまずお金の面が気になりました。お寺を改築するなんて大変なこと

だぞと。住職の説明をお聞きすると、将来の改築を目的に数十年の長い期間、お寺の経費を出来るだけ節約して一生懸命貯蓄してきた資金が基にあるが、予定の金額より三千万円不足とのことでした。建築後の建物の管理費等はこれまでの経費でどうにかまかなえること、またこれからは消費税のアップ、物価のアップのことも考えられるので、今が適当な時期であると同賛意を表しました。不足の三千万円については、三階の本堂部分の予算が丁度これに当たるとの事なので、ご迷惑をお掛けすることになります。門徒の皆様にお願ひしてご寄付を仰ぐことになりました。ご寄付の方法について、私どもは「一口いくら」ということを考えておりましたが、住職から

「それぞれ門徒のお気持ちで頂きたい」という思いで、皆様にお願ひすることになりました。

建物自体は建築当初から建築資材等の急騰で全体の予算より大幅に値上がりいたしました。本明寺のご親戚の方々のお力添えを頂きお借り入れることができました。また、本堂部分につきましても門徒の皆様の大なご協力を頂きまして、当初の希望金額には少し達しませんでした。ご寄付を見事に完成いたしました。ごまた建築に携わってくださった皆様に厚く御礼申しあげます。

先日お寺に参りました時、多くの戸棚や戸袋の中に、中板がなかったものから、どうしてか尋ねたところ「板を付けてもらおうと

相当の枚数が必要で費用が何十万円にもなるので、電気ノコギリで壊した古材を切って自分たちで作ります」と坊守（住職の奥様）から聞かされました。本当に今まで節約を重ねて、お寺の再建に協力されてきた姿を拝見したようで、奥様に心から拍手を送りたいと思います。そして、今後ともよろしくご努力お願いしたいと思います。さて、出来上がったお寺は誰のものでもなく、皆様の心のよりどころであり、心を磨く道場であり、心の安まる所だと思えます。せっかく生まれ変わったこのお寺を生かすも殺すも自分自身だと思えます。皆様のお力で生まれたお寺です。本堂は特に皆様のお力によるところですが。従来以上に気軽に参詣いただき、活用していただければと思えます。

皆様からのご協力いただいたご寄付の御札を申し上げると共にこの完成をご一緒に心からお喜びしたいと思います。



本明寺本堂庫裡落慶記念念珠

この度本堂、庫裡の改築にあたり、本堂前にありました桜の木を残しながら伐採せざるを得ませんでした。樹齢約六十年、植樹約五十年の樹木で毎年春には美しい花を咲かせて、ご門徒や町行く人々の心を和ませてくれました。

伐採により残された幹や枝を京都に送り皆様方の思い出に残るものとして、念珠に仕立ててもらいました。

いままで本明寺を永く支えて来られた人々のご懇志と新しく建つた本堂を念仏道場として永劫に守って行く願いに併せ、この念珠を末永くお参りご愛用して頂きたいと思えます。

平成十九年十二月

合掌

本明寺役員紹介

代表役員

本田 隆見
(住職)

世話人

責任役員

早矢仕 昌治
本田 信子
(坊守)

総代

高田 トヨ
宝田 満男
沼田 博幸

(五十音順・敬称略)

安藤 賢司	川瀬 きぬゑ	郡司 三郎	高野 勢津子	宝田 康子	滝口 泉	滝口 和彦	田中 良子	根岸 千栄子	根本 初子	横沢 正克	横山 ナヲ	若井 武久
-------	--------	-------	--------	-------	------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------



本明寺改築収支報告

収入	
本明寺、本田家	¥ 150,000,000
寄付金	¥ 18,315,000
落慶祝金	¥ 2,040,000
借入金	¥ 55,000,000
合計	¥ 225,355,000
支出	
建築費	¥ 195,990,000
仏具	¥ 10,184,210
設計料	¥ 8,560,000
式典費 (起工式、上棟式、落慶法要)	¥ 2,481,000
役所関係 (検査、登記他)	¥ 357,700
家賃 (仮住まい、倉庫、駐車場)	¥ 2,741,315
借入金関係 (収入印紙代)	¥ 40,000
備品	¥ 2,031,053
桜伐採費	¥ 176,400
雑費	¥ 314,841
残金	¥ 2,478,481
合計	¥ 225,355,000

副住職の大まかな活動

◆新潟県中越沖地震

災害支援ボランティア

(十月九日・十日)

二〇〇七年七月十六日に中越沖地震が発生してから約三ヶ月。東京教区の大鍋を持参し炊き出し活動を行なっていました。今回は一つの節目とする五回目です。僕は地震発生直後(七月二十日)以来二回目の参加でした。初回は避難所であった小学校の駐車場をお借りして炊き出しを行い、被災されたその場の重い空気を切実に感じました。

今回の炊き出しはお寺の駐車場

を借りて「秋祭り」をテーマに、おでん、焼きそば、フランクフルト、わたあめなどを出店風に炊き出しをして配りました。初回とは違い地元の方々との交流もでき、初回では見ることのできなかつた被災者の笑顔も拝見でき、大変貴重な、楽しい時間をすごさせて頂きました。

テレビを見ますと、日々いろいろなニュースが入れ替わりに報道されています。被災当初は地震のニュースが毎日のように流れていました。今ではまったくと言っていいほど報道されることはありません。しかし中越は今でも被災地であり、被災者は復興に励んでいます。今は仮設住宅にも入居できるようになりましたが、入居していただける期間は三年間。先の中越



地震の被災者は退去をしました。また今の新潟は雪の季節です。復興作業も滞ったり、雪害も心配されます。

私たちは状況によって手助けできる人も、できない人もいます。と思いますが、最低限私たちがしな



くてはならないことは、地震が起きたことを風化させず、今でも被災者は復興に励んでいることを忘れないことだと思えます。

◆本山報恩講出仕

御伝鈔拝聴

(十一月二十五日

・二十六日)

毎年恒例となりつつある東京一組若手の会「よにん会」の本山の報恩講に今年も出仕して参りました。今年はお出仕だけではなく二十五日に拝読される『御伝鈔』も拝聴してきました。『御伝鈔』は正式には『本願寺聖人伝絵』といい、宗祖親鸞聖人の伝記の最初のもです。『本願寺聖人伝絵』は本願寺代三世である覚如上人が、親鸞聖人のエピソードと、そのエピソードにかかわる絵が描かれた巻物で、真宗大谷派において最も重い(丁寧)に扱う) 拝読文です。



御伝鈔拝読の様子



お寺の掲示板

十二月

改築によりお寺の正面の塀に掲示板を作りました。仕事などに追われ忙しく歩く人でも、ふとお寺の前を通り足を止めて見ていただけの掲示板にしたいと思っております。またお寺の前の通りは、小学校の通学路にもなっているので、子どもたちの目にも留まるように壁画も掲示しています。作成は副住職の嫁の有希です。元幼稚園の先生の経験を生かしてかわいく仕上げてくださいました。ちなみに法語は副住職書です。粗末な字ですが自分の心に残った言葉を紹介していきたいと思えます。



十二月
壁画テーマ「雪あそび」

◆寄贈◆

贈 宝田満男

金庫
灰皿

厚く御礼申し上げます。



無事に出産しました!!

嫁の有希二〇〇七年十二月十三日午前五時ごろ破水し、そのまま掛かりつけの病院へ入院しました。破水してたこともあり陣痛を促す点滴をして十二時半ごろに分娩室へ入りました。そして二〇〇七年十二月十三日午後一時三分、二八二〇グラムの女の子を出産しました。破水してから八時間、分娩室に入ってから三十分という超安産でした。娘の名前は「唯果（いちか）」です。

ここに娘の誕生と、新しいお父さんとお母さんが誕生したことをご報告いたします。



命名
唯果
いちか

平成十九年
十二月十三日生



平成二十年（二〇〇八） 年忌案内

左記の年に命終された方は年忌にあたっていますのでお知らせいたします。なお、年忌法要は一ヶ月前までにお寺と相談の上お決めくださいますようお願いいたします。

回忌	命終された年	
1周忌	平成19年	(2007)
3回忌	平成18年	(2006)
7回忌	平成14年	(2002)
13回忌	平成8年	(1996)
17回忌	平成4年	(1992)
23回忌	昭和61年	(1986)
(25回忌)	昭和59年	(1984)
27回忌	昭和57年	(1982)
33回忌	昭和51年	(1976)
50回忌	昭和34年	(1959)
70回忌	昭和14年	(1939)
100回忌	明治42年	(1909)

あとがき

◇昨年は建築、落慶とお寺にとって大きな事業を無事に成し遂げることができました。私個人においても入籍、出産と昨年は濃密な一年でした。今年は新しい家族と新しい場所です。昨年よりはゆっくりと過ごしたいと思います。

◇自分が子どもを持つことを不安に思っていました。既に溺愛しています。今回の『明』も娘を抱きなら作りました。マジで娘はかわいいです(♡)

発行 真宗大谷派 本明寺

副住職 本田 彰一（釋 彰一）

〒130-0012

東京都墨田区太平二-七-一

TEL 03-3623-1536

FAX 03-3623-1538

E-mail honmyouji@mx1.ttcn.ne.jp

URL

http://www1.ttcn.ne.jp/~honmyouji/